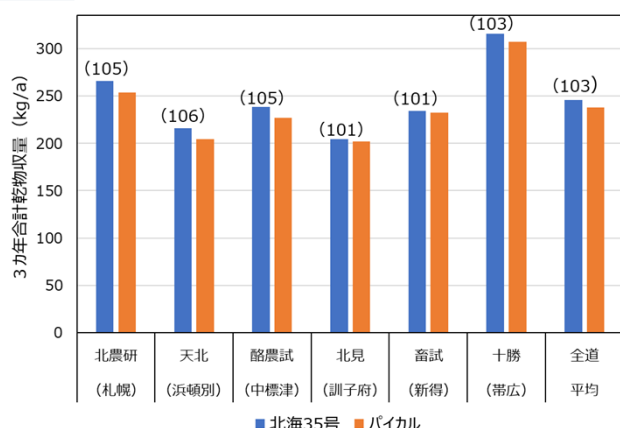


高糖含量牧草のラインナップが完成！ オーチャードグラス新品種「北海35号」

オーチャードグラス「北海35号」は、農研機構北海道農業研究センターとホクレン農業協同組合連合会が共同育成した、晩生新品種です。収量性は標準品種「パイカル」よりやや優れ、**WSC（糖）含量が高く飼料品質が優れます**。「北海35号」の登場により、早生「わせじまん」から中生「えさじまん」、極晩生「きたじまん」まで高糖含量品種のラインナップが完成しました。

収量性



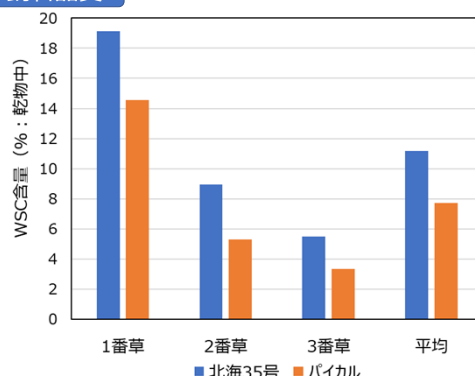
オーチャードグラス「北海35号」の3カ年合計乾物収量
注）バーの上のカッコは標準品種「パイカル」比（%）

耐病性



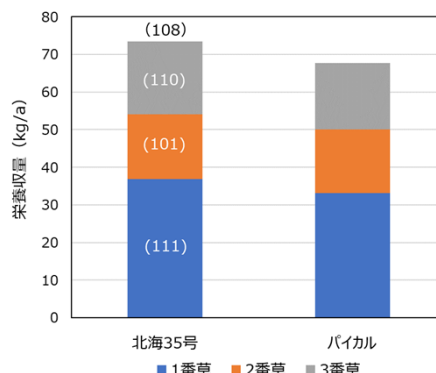
オーチャードグラス「北海35号」のすじ葉枯病罹病程度
「北海35号」のすじ葉枯病罹病程度（1:無または極微-9:極甚）
は2.6（全道平均）で、「パイカル」（3.6）より1ポイント低い

飼料品質



オーチャードグラス「北海35号」のWSC¹⁾含量

1) WSC: 水溶性炭水化合物（糖）。北農研とホクレン十勝試験地の2場所2カ年平均。



オーチャードグラス「北海35号」の栄養収量¹⁾

1) TDN（可消化養分総量）収量。酵素分析法による推定値。北農研とホクレン十勝試験地の2場所2カ年平均。バーのカッコは標準品種「パイカル」比（%）

主な特性

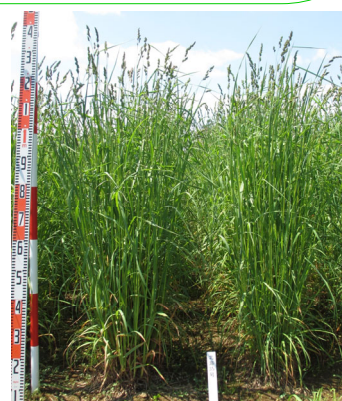
- 1) 出穂始は、標準品種「パイカル」と同日（5月29日）の晩生。
- 2) 乾物収量（採草利用）は「パイカル」よりやや多い。
- 3) WSC（糖）含量は年間を通して「パイカル」より3ポイント程度高い。栄養収量は「パイカル」より8%多い。飼料品質は「パイカル」より優れる。
- 4) すじ葉枯病に対する耐病性は「パイカル」より優れる。

普及

普及対象地域は北海道全域。普及見込み面積は5,000 ha。ホクレンより販売予定。

栽培上の留意点

採草利用を主体にして、放牧利用および採草放牧兼用にも利用できる。土壌凍結地帯において、気象条件の厳しい年に越冬性がやや劣る場合があることから、晩夏の追肥等により越冬性を向上させることが望ましい。



オーチャードグラス
「北海35号」（出穂期）

